

令和元年 9 月 13 日
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

標題 益田アムスメロンの出荷反省会が開催
～産地ビジョン作成にむけて途中経過を報告～

(ダイジェスト)

本年産アムスメロンは昨年より栽培面積が約3反減少したものの、生産者、関係機関の努力により目標販売金額を上回り、2億円を達成するとともに3つの記録を更新しました。出荷反省会では、部会長から今年作成している産地ビジョンの途中経過の報告がありました。

9月6日、益田メロン部会において、アムスメロン出荷反省会が開催されました。本年は昨年より1日早い5月27日の初出荷以降、最終出荷となった7月1日まで、大きなピークはなく順調に出荷が行われました。栽培面積が昨年より約3反減少（前年比97.2%）したものの、生育後半は天候にも恵まれ、また、生産者の栽培管理の徹底、市場関係者の販売努力により、目標販売金額の1億8千万円を大きく上回り、2億円を達成することが出来ました。更にこれまでの記録が3つ更新されるなど、作成中の産地ビジョンを大きく後押しする報告がありました。

| 項目 | 栽培人数 | 栽培面積 | 出荷数量 | 販売金額 |
|--------|------|---------|-------|--------|
| 令和元年実績 | 64名 | 約11.3ha | 375t | 205百万円 |
| 前年対比 | 100% | 97.2% | 97.7% | 103.2% |

【3つの更新記録】

- ①個人平均反収（個人情報により未記載）
- ②部会平均反収（販売価格 1,813,173 円/反）
- ③贈答用クレームゼロ

最後に、益田メロン部会部会長より、今年役員会で検討している産地ビジョンについての途中経過報告がありました。令和8年にはメロン栽培50周年を迎えることから、今後の産地のあり方について目標を掲げ、4つの柱（取組）を立てて、部会と関係機関が一緒になって取り組む内容としています。来年1月の総会ではビジョン（案）を提案することにしており、今後更に意見出しを行い、役員会や役員支部長会で詳細を詰めていくことにしています。



会場の様子



産地ビジョン途中経過説明